

広報誌
平成23年 新緑号
医療法人社団 三光会
誠愛リハビリテーション病院

誠愛TIMES

新任医師・新入職員あいさつ
入社式



患者さんの権利宣言

安全で良心的な一貫した医療を受ける権利

個人の尊厳とプライバシーを守る権利

自らのことを知り、説明を受ける権利また苦情を申し立てる権利

医療機関或いは医療行為を選択・決定し、或いは拒否する権利

患者さんの日常生活に配慮した医療を受ける権利

2011年誠愛リハビリテーション病院 医局
海外学会報告

平成二十二年度患者さん満足度調査報告

2011年 誠愛リハ病院 医局 海外学会報告

所属・氏名: 医局 鍵山智子、情報管理室 添田照二、ほか医局9名

参加学会名: アメリカ心臓病協会／脳卒中協会 国際脳卒中会議 2011 (AHA/ASA, International Stroke Conference : 2011)

開催地: アメリカ合衆国、カリフォルニア、ロサンゼルス

期日: 2011年2月9日～2月11日

学会発表年月日: 2011年2月10日(ポスター)

タイトル: Effect of Statins on Functional Rehabilitation Outcome in Stroke Inpatients in Convalescence Stage 「回復期リハビリテーションの機能回復におけるスタチンの効果」

演者(発表者に○): ○ Kagiya T, Soeda T, Yokoyama Y, Hagiwara N, Watanabe Y, Ishimatsu Y, Yokoyama N, Kusuda K, Kurokawa T, Onoyama K, Ibayashi S

今回、当院で行なった臨床研究「回復期リハビリテーションの機能回復におけるスタチンの効果」を、アメリカ、カリフォルニア州ロサンゼルス市で開催されたアメリカ心臓病/脳卒中協会 (AHA/ASA) 主催の国際脳卒中カンファレンス (ISC) 2011 において発表致しました。

AHA/ASA は様々な循環器、脳血管疾患のガイドラインを経年的に発信することで知られており、ISC は国際的にも重要な学会の一つです。その中でも採択の比較的厳しい本学会において、世界に向けて当院オリジナルデータを発信することができ、非常に有意義な経験となりました。今回の参加人数や内訳は未発表ですが、2009年のデータをみますと、3,568名が参加し、うち約3%に当たる111名が日本からの参加者だったようです。

<http://sciencenews.myamericanheart.org/>

今回の研究は、2007年6月から2009年5月の2年間に当院で入院リハビリを行なった脳血管疾患症例584名のうち、脳梗塞症例303名に焦点をあて、高コレステロール血症治療薬であるスタチン内服の有無でリハビリ効果を検討した後ろ向き(研究過去の症例からデータを抽出する方法)です。

スタチン内服群では、回復期におけるリハビリの改善効果、とくに認知機能面で良い影響を及ぼしているといった結果になりました。

2007年から導入された電子カルテシステムにより、手作業では困難と思われる多数例のデータ抽出が可能となり、治療に当たったスタッフが日々の診療の中で入力したデータをまとめることができたことも、今回の研究の大きな収穫であったように思います。

質問事項として、スタチン開始時期や患者背景、スタチン効果の機序についてなどがありました。発表段階では患者背景にバラツキがありましたが、今後観察期間を延長することや、機能回復の時間的推移や改善機能の詳細な分析など、さらなる検討を行なった上で論文化したいと考えています。

謝辞) 膨大な数値データ解析に、全力でご協力を戴いたスタチン提供 A 製薬会社の学術担当の方々 (M. M. ほか) には心から深謝申し上げます。

AHA International STROKE Conference 2011 発表報告

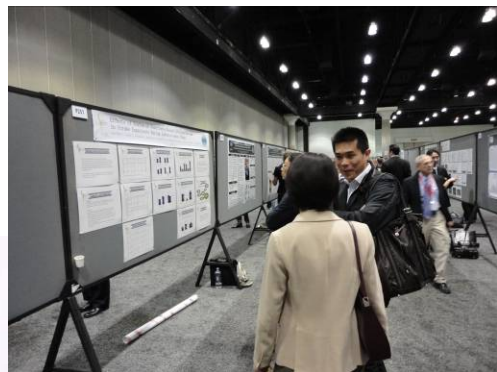
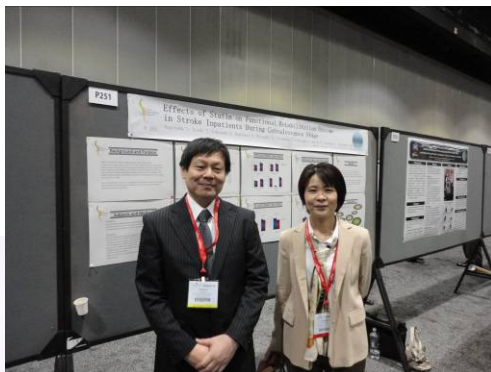
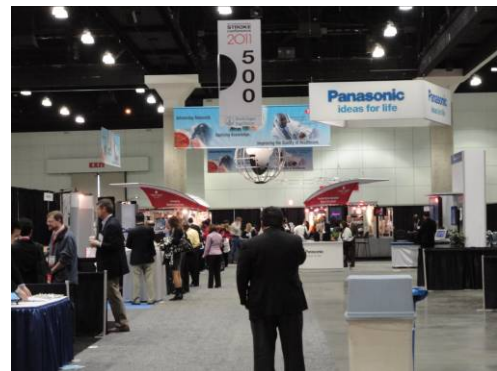
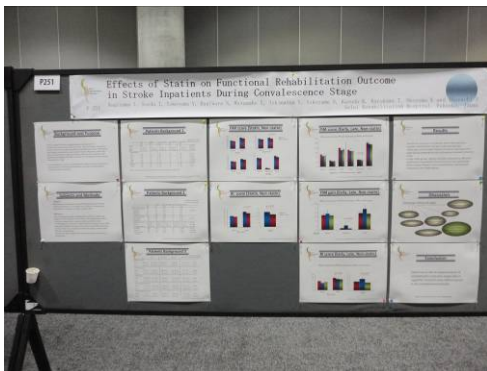
Nursing Symposium: February 8 ■ Sessions: February 9-11 ■ Exhibits: February 9-10



INTERNATIONAL
STROKE
CONFERENCE 2011

LOS ANGELES,
CALIFORNIA

誠愛リハビリテーション病院
医局 鍵山 智子
管理部 医療情報室 添田 照二



まとめ

スタチンは、これまで早期投与時のみ効果あると報告されていた脳血管障害後の機能回復において、回復期リハビリテーション時期の投与開始であっても、その機能回復に効果があり、特に認知機能について改善させる効果があった。

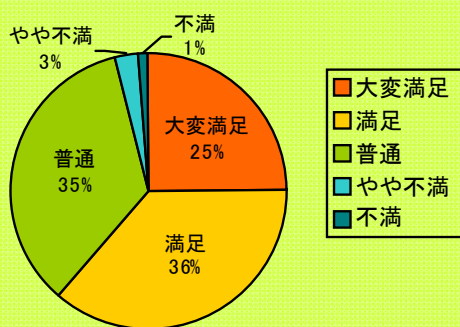
鍵山医師が中心となり、診療と研究、データまとめに頑張ってくださいました。過去にお勤め戴いたその他の多くの先生方や現医局、スタッフの皆さんのご協力に感謝し、今後とも当院医局からの積極的な学会発表や論文文化に精進努力して参りたいと思います。有り難うございました。 院長

— 平成 22 年度患者さん満足度調査 結果報告 —

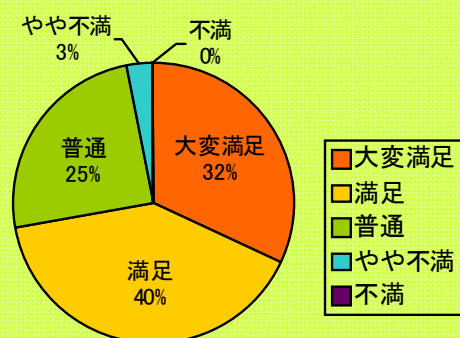
平成 23 年 1 月 17 日から 2 週間、患者さん満足度調査を実施いたしました。対象は外来通院されている患者さんとそのご家族、ご入院されている患者さんとそのご家族です。調査は毎年実施しており、貴重なご意見を病院運営に反映し、改善していけるよう今後も努力して参ります。

○外来診療

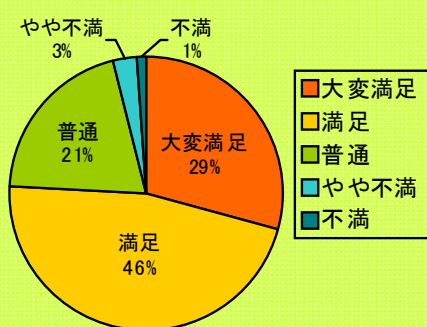
医師の診断について



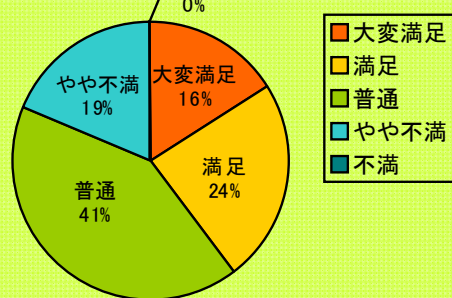
リハビリについて



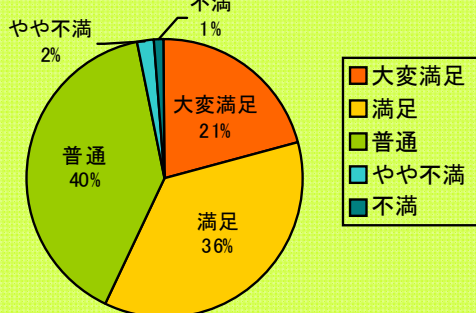
看護職員について



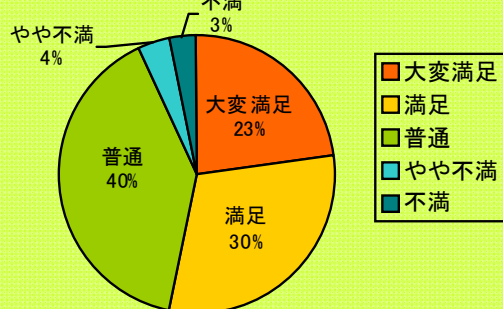
検査等について



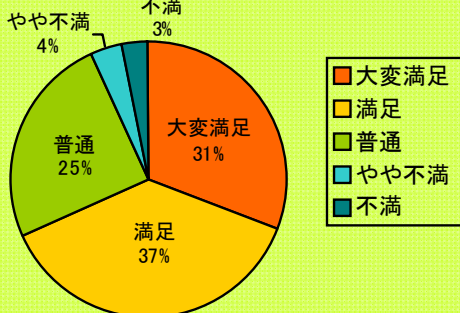
薬局について



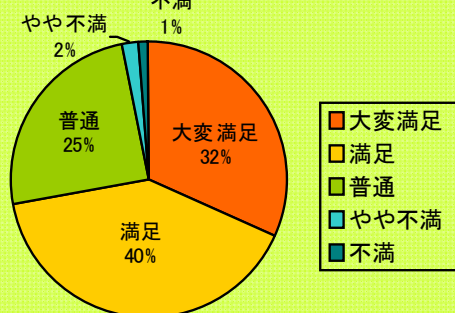
栄養指導について



医療相談について

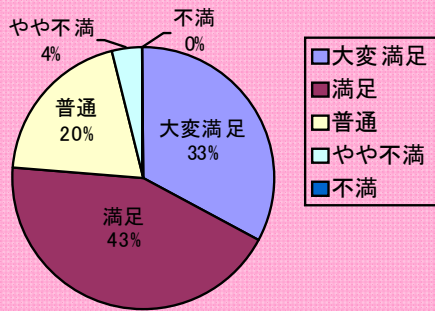


受付について

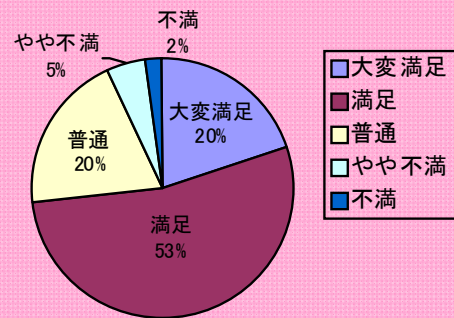


○入院診療

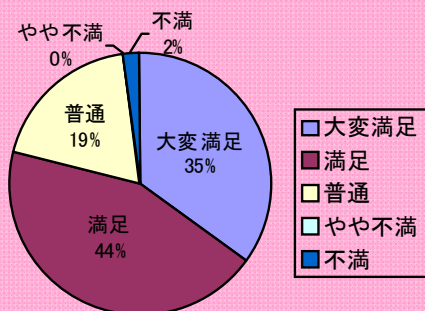
看護職員について



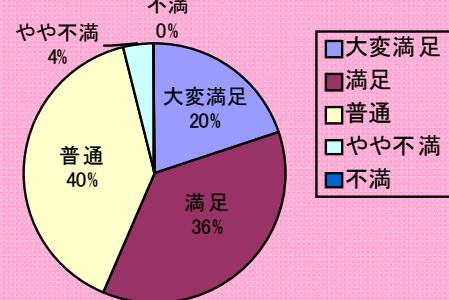
看護職員について



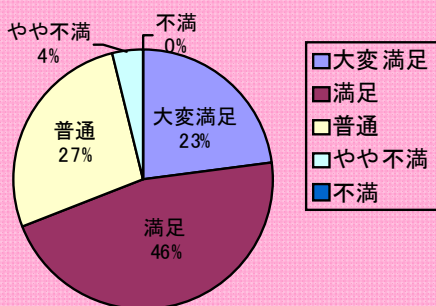
リハビリについて



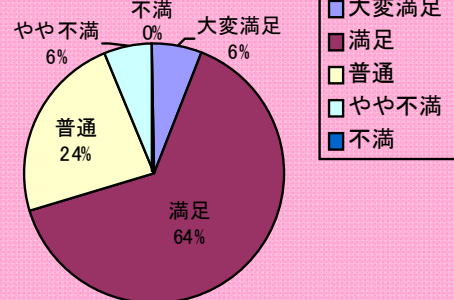
検査等について



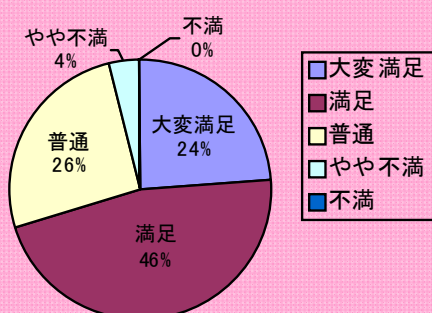
薬局について



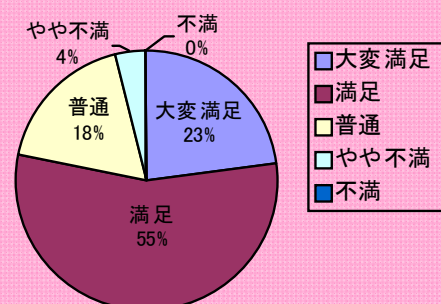
栄養指導について



受付について



環境について



質問は医局や看護、リハビリなどの部署ごとに分け、患者さんには自らと関わりのある箇所を回答して頂きました。ほとんどの方が回答した医師の診察に関する項目では、大変満足と満足を選んだ人が7割を超える一方で、患者目線での説明を求める意見がありました。看護職員についての質問では、患者さんとの接し方や食事の準備などの項目で大変満足して頂いていたことがわかりましたが、排泄時や入浴時の介助の項目で普通の回答が比較的多く見られました。リハビリの訓練についても満足が大勢を占めていましたが、リハビリの時間についての要望や、小児リハの家族が集うレクリエーションを希望する意見などが見られ、訓練とは少し違った目線での要望が見られました。他にも福祉部や薬局、検査・放射線、栄養、受付、清掃などの部門で回答を得ることができました。

文責 医事課 加藤 大樹

新任医師のあいさつ

ご利用者の皆様、職員の皆さんこんにちは！

この度、当院の医局で仕事をする事になりました佐竹と申します。

整形外科とリハビリテーションの専門医です。昭和37年に九大を卒業後は主に肢体不自由児施設で仕事をしてきましたので障害をお持ちの方々とお会いしたり、リハビリテーションの事で何かちょっとお話をすることは慣れていました。

リハビリテーションは、怪我や病気になる前の状態を取り戻すだけではなく、新しい生活の仕方や今までに無かった機能を作り出す（創出）する活動です。その上で、できるだけ早く職場や家庭生活へ戻り、それまでに無かった「生き様」を作り出すことにつながってゆく事にもなります。困難の多い道のりですが頑張り甲斐のある道のりです。

私も、後期高齢者にやや近い年齢ですが、ご利用者の皆様、職員の皆さんと一緒に日々新しい生活に向かって歩いて参りたいと思いますのでこれからも宜しくお願い致します。



医局 佐竹孝之
(昭和37年九大卒)

「70の手習い」

始めに言っておきましょう。私は、パソコンが苦手です。今迄は、自称達筆を執ってきました。ナースからは「上手だけど、読みにくいですね」と言われながら。それでも何かの時は、まわりの若い人に頼めばパソコンの用は果たされていました。

ところがどっこい、当院では通用しません。そこで、相当遅ればせながら練習を開始して表題の通りです。新しい事を始めるのが、億劫な年頃です。まあ我慢して、見守ってやってください…ネ。



医局 飯田英紀
(昭和42年九大卒)

入社式

平成22年4月1日（金）、新棟研修室にて入社式が行われました。

今年度は、医局2名、看護部1名、リハビリテーション部20名、合計23名が入社しました。



新入職員挨拶



理事長辞令交付



新任医師紹介

新入職員挨拶

今年度より、当院にて理学療法士として働かせていただく事になりました。

大学を卒業したばかりの人生経験に乏しい私でございますので、学生生活とは全く異なる新しい環境に対し、戸惑いや不安もありますが、毎日患者さんや様々な職種のスタッフの方々と接する中で多くの刺激を受け、日々、勉強させていただいています。

これから、一日でも早く一人前の医療人として、責任のある行動を心がけ、患者さんの未来を、患者さんとともに歩いていけるよう、最大限の努力をしていきたいと思っております。どうぞ御指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

新入職員代表 リハビリテーション部 理学療法課 甲斐淳子

